民主香川

定価　月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13－14
☎(087)834-7311

高松港を軍港利用させないための学習会

香川革新懇と9条の会香川

香川革新懇と9条の会香川は2日、高松市藤塚町で「高松港を軍港利用させないための学習会」が開かれ、オンラインも含めて62名が参加。かし昭二日本共産党香川県議と十河浩二9条の会かがわ事務局長が講師として招かれました。

十河氏は安倍政権下で安保法制、岸田政権下で安保関連三文書の閣議決定が、日本を憲法とは相いれない戦争国家に作り変えていることを指摘。「市民と野党の共闘の力でこの情勢への反撃をしていきましょう」と述べました。

かし氏は 県議会で高松港軍事利用反対の意見書が否決された経緯や香川での実例を示し、「国管理の高松空港も軍事利用されるのではと、懸念の声もある。自治体の自衛隊への名簿提出の協力は、戦前の赤紙配り、徴兵制につながる恐れもある。個人情報保護のために反対していく」と述べました。

平和憲法を生かすかがわ県民の会は8日、県内8ヵ所の駅頭で、ハンドマイクで訴えながら「第9条は平和の約束」と書いたティッシュを配り、アピール行動を行いました。

ＪＲ高松駅前では、石田まゆ衆院香川二区候補は、イスラエルによるガザ地区攻撃が激化する中、ヨルダンのアメリカ軍の拠点での無人機攻撃の報復でイラクとシリアで親イラン武装戦力への攻撃を始めるなど、紛争や戦争など暴力の連鎖が絶えないことを強調。「国連憲章を守れ、国際法を遵守しろ、今すぐ停戦を、の声を大きくし、日本は憲法9条を持つ国として戦争行為を許さない立場を堅持すべきだ」と述べました。

そのほかに、成合美範社民党県連合副幹事長、小野賢治平和労組事務局長、十河浩二憲法会議、「みどり・香川」の太田安由美高松市議、中西俊介立憲民主党高松市議、大熊正樹平和憲法を生かす香川県民の会事務局長がリレートークを行いました。

参加者からは「10年程で、自公政権が戦争の準備する急激な変化にとても驚いた」との声が出ました。

駅頭から平和を訴え

平和憲法生かすかがわ県民の会

太鼓台

寒桜。丸亀市の南部、水橋池から花だより、しきりである。満開、見頃は2月下旬ごろまでとか。カメラを構える人がつぎつぎに。レンズの先にはメジロが蜜をついばむ。春はもうそこにきている▼JR駅前でのスタンディング、人の流れはそう多くはないが、このところ拍手がくる。学生風の若者が立て看をもって並んでくれたり、近づいて拍手をくれたりと。マイクもつ手にもつい力が入る。春風楽し▼政治とおカネ。自民党が大揺れである。「しんぶん赤旗」がすっぱ抜いたことから検察が動き出した。自民党派閥裏金事件、首相だんまり。派閥の解散で一件落着とは参りませんよ。何事もおカネで解決、そのおカネの出所がパー券という名の企業献金としたら「なにをか言わんや」だ▼ここは関わりのある派閥幹部、議員さんも国会で証人席に立っていただいて洗いざらい明らかにしてもらわなくてはね▼群馬・前橋市長選挙で日本共産党が自主支援した小川晶市長が誕生、京都市長選では「民主市政の会」推薦の福山和夫氏は16万票を得てオール与党候補に肉薄する。吹き出した風は止まらない▼ここは国民目線のわかりやすい政治に「変える」を合い言葉に政治に春風を思いっきり吹かせましょうよ。

【3面から】　香川県では私立高校の学費は年間約50万円となり、入学金も合わせると60万円をこえます。また、昨今の物価高や将来の進学（大学や専門学校の学費は上昇一途）に向けて1年生の段階からアルバイトの申請が多くなっていることや、授業料の2～3か月間滞納者はクラスによって複数存在し、なかには4月から未納状態という生徒もいます。

現在国からの就学支援金は、世帯年収590万円未満だと年39万6千円（一月3万3千円）あり県内私学平均で月1万円程度の家庭負担となりますが、同じく590万円以上910万円未満の世帯では、国からは年11万8千円（一月9千900円）のみの支援しかなく家計負担は県内私学平均で年40万1400円（一月3万3450円）にもなります。

教職員からは、そうした「590万円の壁」を解消し、県独自の補助制度を拡充すること、また、エアコンなど空調費は今年度から公立高校では全額公費負担となっており、私学に対しても支援をしてほしいとの要望をしました。

また保護者からは、「子どもが中学校から私学を選択し通っている。向学心に燃えた生徒もたくさんおり、そんな子どもたちへの援助をしっかりお願いしたい」、「自営業をしているが、コロナの休業補償はしていただいて助かったが、子どもが実際に私学を受験し通うなかで確実な学費の援助をしてほしい」「子どもが将来的に激減することが予想されているが、そんななかでも将来の香川を担う中高生への就学援助を拡充してほしい」などの訴えがありました。

池田知事からは、「以前に比べて私学の多様性を活かした教育が展開されており、しっかりサポートしていきたい。世帯年収590万円以上の家庭に対しては拡充の方向で検討していきたい。エアコンなどの空調費援助についても、今後前向きに方針を決めていきたいとの返答がありました。

讃岐の文学碑めぐり ⑬

讃岐の古代朝鮮遺跡を踏査した

金達寿（キム・タルス　1920～97）

文・写真　深沢　雨根

金達寿は朝鮮・慶尚南道の生まれで、十歳のとき渡日した。どん底の貧困の中で、日大専門部芸術科を卒業し、新聞記者になった。1946年4月、文学仲間と『民主朝鮮』を創刊し、在日朝鮮人による文学活動を開始する。この雑誌に金達寿は、「後裔の街」を連載し文壇から注目された。

同年十月、徳永直らのすすめで新日本文学会に入会し、常任中央委員になる。金達寿は在日朝鮮人作家の代表格と見なされていたのである。実際、53年と58年に芥川賞候補になった。

金達寿は、戦後まもなく結成された在日朝鮮人連盟（朝連）の神奈川県本部常任であった。当時、朝連の活動家の多くが共産党員で、金達寿も1949年に入党した。

1969年、古代日本における朝鮮文化に関心を強めていた金達寿は、季刊雑誌『日本のなかの朝鮮文化』を創刊する。歴史学者の上田正昭（京大）や考古学者の森浩一（同志社大）、司馬遼太郎も協力してくれた。

金達寿は古代朝鮮文化遺跡を掘り起こすため全国各地を訪ね歩き、その成果は、『日本の中の朝鮮文化』全十二巻（講談社）となって出版された。その第九巻は四国編で、讃岐の紀行文が含まれている。

金達寿が調査のため来県したのは1985年である。屋島の朝鮮式山城跡などを訪ねているが、国分寺町柏原にある新羅神社にも足を運んでいる。鳥居も狛犬もないとても小さな神社で、天台宗鷲峰寺の本殿のすぐ横にひっそりとある。新羅とは言うまでもなく朝鮮にあった古代国家（前五七年～九三五年）である。

新羅神社（国分寺町）

県内には善通寺市金蔵寺町の新羅神社、同市木徳町の新羅神社、高瀬町にも新羅神社がある。新羅系渡来人秦氏の氏神を祀った神社である。平安時代初期の明法家（法律学者）十一人のうち八人までが讃岐出身であった。当時、法律など高度な専門知識にたずさわる官吏は渡来人で占められていたが、讃岐の秦氏が多く登用されていたのである。

実は、金達寿が来県したのは二度目で、初めて来県したときは、次のような経緯があった。高松市内のある高校で、世界史の時間に朝鮮に関する意識調査をしたところ、高校生たちが差別意識をもっていることが明らかになった。三年生約二百人の回答のなんと九割以上が、偏見と蔑視に満ちたものだったのである。この事実に驚いた高松一高の浄土卓也教諭らは、「日本と朝鮮をつなぐ会」をつくり、『絆』という機関誌を発行した。「四国の中の朝鮮文化」という講演会も開かれることになり、その講師として金達寿が招かれたのである。

金達寿は「1980年か81年のこと」であったと第九巻（238頁）の中で述べている。